

2024年度 事業報告書

2024年4月1日から2025年3月31日まで

特定非営利活動法人 レター・ポスト・フレンド・相談ネットワーク

1 事業実施の方針

2024年度は既存事業のほか、「親亡き後を生きるひきこもり当事者の老後を支え合う事業」並びに「ひきこもりに対する偏見をなくす理解啓発促進事業」など助成金を活用して事業を行い、前年度に引き続き札幌市から委託を受け「札幌市ひきこもりに関する集団型支援拠点設置運営業務:よりどころ」では新たにメタバースを活用した居場所を実施し、「広域な地域特性に対応したひきこもり多機能型支援拠点設置運営事業」では札幌市をはじめ全道4支援拠点での居場所活動を展開し当事者家族の孤立予防に尽力した。

2 事業の実施に関する事項

特定非営利に係る事業

事業名	事業内容と報告	実施月日	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
外出困難なひきこもり者と家族への相談支援活動事業	ひきこもり当事者や家族からの電話、電子メール、手紙、出張・来談による相談に対応し、必要に応じて他団体機関につなぐなどひきこもり当事者や家族が社会的に孤立しないような実践活動に努めた。2024年度は手紙相談延べ9件（継続相談1件）、電子メールによる相談件数は問い合わせを含め延べ884件。電話による相談件数延べ43件。来談による面接相談は4件、出張相談1件（来談初回のみ・出張相談吉田対応1回のみ）。	通年（年末年始を除く）	事務局	4人	相談総数延べ941人	10
ひきこもり者の家庭へのアウト・リーチ支援（訪問支援）事業／令和5年度（補正予算）独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成金	2024年度は「広域な地域特性に対応したひきこもり多機能型支援拠点設置運営事業」として当事者や家族を対象に彼らの孤立感を和らげ、他者とゆるくつながり、安心感を届ける目的で手紙によるピアアウトリーチを展開し、ネット環境がなく居場所に来れない当事者等38名（男性13名・女性25名）に対し月2回程度の頻度でピアスタッフが作成したオリジナル絵葉書を郵送した。絵葉書は電子メールにはない温かみのある手書きメッセージと言語では伝えきれないイラストや写真を併せ持つことで疲れた心を癒す効果に寄与した。手紙によるピアアウトリーチは返信を求めないことが原則だが、年賀状の返信など当事者や家族からお礼が寄せられたほか、居場所に来訪する者があった。	通年・概ね毎月2回程度	事務局	4人	当事者（家族）38名	167
人間関係づくりを学習する当事者会／令和5年度（補正予算）独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成金	概ね35歳を基点にしたひきこもり当事者の集まり「SANGOの会」を初心者例会と通常例会に分けて開催し、ひきこもり当事者が社会的に孤立せず、仲間とつながり自由に交流を深めた。通常例会ではとくにプログラムを設けず参加者が話したいことを中心にフリートークとし参加者同士で会話を楽しむことを中心に行った。初心者例会はオンライン例会とし、ovce(株)2次元仮想空間メタバースを活用して夜間に開催した。5月～7月までの通常例会と初心者例会は「広域な地域特性に対応したひきこもり多機能型支援拠点設置運営事業」として実施した。また9月から1月までの通常例会は「道ひ老会」を兼ねた例会運営とした。会場はボランティア団体登録している札幌市ボランティア活動センターを2か月前から予約して使用した。そのため開催日程は固定できなかった。2020年度以降開催できなかった地域めぐり登山などの例会外企画はヒグマ出没等により安全確保の観点から今年度も中止した。	通常例会・初心者例会毎月1回実施 （2024年度オンライン初心者例会） 4月26日・7人/5月31日・8人 6月28日・6人/7月26日・6人 8月30日・4人/9月27日・5人 10月25日・4人/11月29日・4人 12月27日・5人/1月31日・6人 2月28日・6人/3月28日・5人 （2024年度通常例会） 4月6日・3人/5月4日・3人 6月1日・2人/7月6日・4人 8月10日・5人/9月28日・12人 10月13日・13人/11月2日・12人 12月7日・9人/1月11日・8人 2月1日・1人/3月2日・1人	ボランティア活動センター研修室	2人	2024年度実績／通常例会参加者延べ73人・オンライン初心者例会67人	109

事業名	事業内容と報告	実施月日	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
ひきこもり者とその家族等に役立つ広報出版事業／令和6年度札幌市市民まちづくり活動促進助成金(さぼーとほっと基金)・公益財団法人北海道地域活動振興協会ボランティア活動支援助成金	会報「ひきこもり」通信を発行(A4判全8頁年6回発行／電子版・紙媒体各100部印刷製本)し、当NPOのHPに電子版PDFを無料公開するとともにネット環境のない世帯や支援団体機関には紙媒体として郵送配布した。表紙は、ひきこもり経験者の貝瀬郁哉氏が海外で撮影した写真を使用した。2024年度は令和6年度さぼーとほっと基金「ひきこもりに対する偏見をなくす理解啓発促進事業」(別項参照)と連動させて広報出版事業を展開したため同事業で実施した「道産こもり179大学」で話された内容を掲載したほか、シリーズ「ひきこもりの偏見をなくすために」を5回連載し、ひきこもり当事者や経験者が直面する課題について触れた。また9月には当団体創立25周年記念号を発刊し郵送してひきこもりの理解啓発を図った。	年度内計6回	事務局など	3人	北海道・札幌市内に住む当事者、家族、支援者、一般人100人	102
ひきこもり当事者の老後を支え合う協同実践事業／2024度公益財団法人日本社会福祉弘済会社会福祉助成金事業	本研究事業では、高齢化が進むひきこもり当事者の孤独孤立予防を図ることを目的に、「ひきこもりの老後を支え合う協同実践事業(以下:ひ老協)」を展開した。ひ老協では、中高年層のピアスタッフが主体となり定期的な「道ひ老会」と呼ばれる場を2024年9月下旬から2025年1月上旬まで計5回開催し、ひきこもりの老いと関係の深い5つのテーマ、ひきこもりと「住まい」「年金」「仕事」「介護」「後見人遺言相続」について専門講師を招き前半を学習会、後半を小グループによる情報交換会として実施した。9月11日付市内版新聞告知報道により毎回関心度は高く北海道札幌市内近郊から定員40人にはほぼ近い参加者で当事者本人も多く参加した。また会場に来られない多くの当事者とその家族のためにオンラインを活用した「道ひ老会」も計5回開催(SANGOの会初心者例会と連動)し、今後想定される両親亡き後の生活上における孤独孤立防止策に努めた。本研究事業評価アンケート結果では、事業全体の満足度には、たいへんよかった73人(50.0%)、よかった49人(33.6%)を併せ89.0%に達した。参加者は40代50代当事者と70代80代の親が大半を占め「講師の誠意が胸にヒシヒシと伝わった」など事業に対する満足度評価も高かった。本研究事業のまとめは「ひきこもり当事者の老後を支え合う協同実践事業報告書」(A4判全26頁モノクロ左無線綴じ印刷製本300部作成)として刊行し、北海道内の主なるひきこもり当事者団体や家族会、ひきこもり支援関係団体機関に郵送配布を行った。またこれと併行して当NPOの公式ホームページやSNS、会報「ひきこもり」通信などでも案内し必要とされる人たちの手元に幅広く届くよう心掛けた。事業への反響として、第3回道ひ老会に登壇した㈱Meta Anchorで「COMOLY」を運営する代表取締役山田邦生氏の講演内容が11月9日付北海道新聞道央版「はなし抄」欄、2024年12月号情報誌「北方ジャーナル」に掲載された。	2024年度 実行委員会 5月～6月 (オンライン会議) 「道ひ老会」学習会 9月28日, 10月13日, 11月2日, 12月7日, 1月11日 オンライン道ひ老会 9月27日, 10月25日, 11月29日, 12月27日, 1月31日	TKP札幌駅カンファレンスセンター2階カンファレンスルーム2A,ZOOMオンライン会議室	6人	北海道内に住む当事者、家族、支援者など延べ193人	681
ひきこもりに対する偏見をなくす理解啓発促進事業／令和6年度札幌市市民まちづくり活動促進助成金(さぼーとほっと基金)	本事業では、従来ひきこもりに抱かれてきた偏見をなくし正しい理解を広げることとを目的にひきこもりの理解普及啓発事業を以下の3つの柱立てを網羅する形式で実施した。①ひきこもり経験者が先生、家族や支援者らが受講生となり、ひきこもりに対する誤解や偏見をなくすための試み「道産こもり179大学」を11月23日に札幌市内で開催した。会場には定員30人に対して45人が参加し、「親亡き後」「会食恐怖症」「受援就労」について3名のひきこもり当事者の生の声を聴いた。参加者からは「3人の先生方が、わかりやすくこれまでの経験を的確に伝えるため、丁寧に準備をしてくれたことが強く伝わった」と感想もあり高評価を得た。②当日イベントを踏まえひきこもりの正しく理解できる一般市民向け啓発活動用三つ折りリーフレットを3000部作成し希望者に配布した。③「道産こもり179大学」の内容のほか、「ひきこもりの偏見をなくすために」を連載し会報「ひきこもり」通信を刊行した(別項参照)。本事業の反響として11月27日付北海道新聞道央版に「道産こもり179大学」の内容が掲載された。	道産こもり179大学 2024年11月23日	北海道立道民活動センター「かでる2.7」1050会議室	9人	ひきこもり当事者・家族・支援者など50人	208

事業名	事業内容と報告	実施月日	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
広域な地域特性に対応したひきこもり多機能型支援拠点設置運営事業／令和5年度(補正予算)独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成金	中高年ひきこもり当事者とその家族の社会的孤立予防を図ることを目的に北海道の「広域な地域特性に対応したひきこもり多機能型支援拠点設置運営事業」を実施した。 事業について協議するため、当NP0代表者のほか現地窓口となる団体代表者等から選出した10名の事業推進委員による委員会を設置し、計6回zoomオンライン会議場を活用して建設的な意見交換を図った。 北海道内4つのブロックによる支援拠点運営では、道央圏は札幌市を拠点とした当事者グループ「SANGOの会」と共に札幌圏域の2地域でサテライト型支援拠点にて協力を、道北圏旭川市も当事者会「NAGI」を通常例会を連携団体によって機能させることで拡充強化した。道東圏は支援拠点が未設置であったため、行政をはじめ北見市ひきこもり相談センターが現地窓口となり支援拠点の基盤づくりに寄与した。道南圏函館市は相談窓口の全世代型地域包括支援センター専門職員の資質向上にも貢献し、ピアスタッフの「学習機能」が生かされた。 支援拠点運営と並行してovice(株)2次元仮想空間メタバースを活用し各4支援拠点で各3回、ICT(メタバース)を併用した各支援拠点運営を実施した。 また、諸事情でネット環境にない中高年層で「受け取るだけ」であれば精神的な負担がなく大丈夫という当事者に対して月2回程度手紙(絵葉書)を送付するピア・アウトリーチ活動を実施した(別項目参照)。 支援拠点運営の総括として開催した「公開型ひきこもり支援拠点ワークショップ情報交換会」では、各4支援拠点現地窓口役を担った4団体が集まり事業報告と情報共有、意見交換を行った。 本事業の全体的評価をまとめた報告書(電子版・紙媒体版A4判無線綴じ印刷全28頁300部)を作成し、当事者、家族、支援団体機関を中心に配布し、当法人公式ホームページ内に構築する特設サイトにて広く周知した。 本事業の反響も多く各支援拠点運営事業にまつわる新聞記事(北海道新聞 9/3北見版・9/18道南版・10/13道東オホーツク版・10/23道南みなみ風・12/6函館新聞)が掲載されたほか、情報誌「北方ジャーナル」11月号に北見市で開催された支援拠点事業について報道された。	2024年度 事業推進委員会 5月22日,7月19日,8月2日,9月12日,12月24日,2月19日午前枠 (オンライン会議) 支援拠点運営 道央圏札幌「SANGOの会」5月4日,6月1日,7月6日,道央圏サテライト7月25日,2月21日,3月6日,午後枠各3回計6回メタバース5月31日,6月28日,7月26日計3回 道北圏旭川「NAGI」8月21日,10月16日,12月18日午後枠,メタバース8月30日,10月25日,12月27日夜間枠,各3回計6回 道東圏北見「ふらっと」8月24日,9月21日,10月19日午後枠,メタバース9月10日,10月8日,11月12日夜間枠,各3回計6回 道南圏函館「あさがお」10月4日夜間枠,11月17日,12月1日午後枠,メタバース10月17日,11月14日,12月19日夜間枠,各3回計6回 公開型ひきこもり支援拠点ワークショップ情報交換会 2025年1月30日 手紙によるピアアウトリーチ 通年	TKP札幌駅カンファレンスセンター2階カンファレンスルーム2A、札幌市社会福祉総合センター、旭川市とさわ市民ホール、函館市総合福祉センター、北見市芸術文化ホールほか公共施設、ZOOMオンライン会議室	8人	北海道内に住む当事者、家族、支援者など延べ354人	4,058

事業名	事業内容と報告	実施月日	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
札幌市ひきこもりに関する集団型支援拠点設置運営業務:居場所「よりどころ」	前年度に引き続き札幌市から業務の委託を受け居場所「よりどころ」を実施した。居場所「よりどころ」は、札幌市内近郊に在住するひきこもり当事者とその家族を対象にして、「札幌市ひきこもり地域支援センター」との協同により「居場所機能」と「相談機能」「学習機能」を併せ持つ地域拠点として、当事者会並びに家族会を月4回開催（うち1回を当事者会はメタバース（仮想空間）で、家族会はZOOMを活用したオンライン家族会として開催）。本業務にはひきこもり経験を有する1名の運営統括支援員と6名の経験者ピアスタッフに加え3名の家族ピアスタッフの計10名体制で取り組んだ。 当事者会の参加人数は計48回で延べ313人。家族会の参加人数は計48回で延べ231人。前年度と比べ当事者会は100人の増加、家族会は2人微減した。当事者会の増加についてはコロナ禍からの回復が大きな要因といえるが、2024年度から開始したメタバースによるオンライン当事者会の参加者数が開始当初は5人以下で横ばいが続いたが1月～3月にかけて10名以上の参加があったこと、通常の例会とメタバースを繋げた（ハイブリット型）例会を月3回行うことによりメタバースの認知度が高まり札幌市以外に在住する参加者が増えたことも要因として挙げられる。その一方で家族会は会場開催が親の高齢化で停滞。全行程で参加者1人が4回あったが全てオンラインでの開催回であった。 オフラインでの当事者会では、ゲーム、雑談、フリー、初心者を行うグループ、お一人様で過ごす形で実施した。オンラインでは参加者が少数であったことから特にグループ分けは実施せず世間話から悩み事まで幅広く交流した。 オフラインでの家族会では、当事者ピアスタッフが与えられたテーマ「ひきこもりが生き抜くこと」「何故ピアスタッフが続いているのか」や「ひきこもりと健康」などをテーマにした話題提供や、当事者家族ピアスタッフによるクロストーク、ひきこもり地域支援センターPSWによるミニ学習講座を継続的に実施し、後半はグループワークを行った。 オンラインでは、配置を家族ピアスタッフのみとしたことや参加者が少数であったことから特設テーマ等は設定せず自由に交流できるようにした。 メタバースによるオンライン当事者会に対する期待が大きく、NHKをはじめ、HTB、UHB、HBC各局の情報番組でも取り上げられたほか、5月15日付北海道新聞朝刊全道版、6月2日付毎日新聞朝刊全道版で報道された。	2024年度当事者会 毎月第1第3月曜日（5月,8月,10月,11月,1月は第2第4月曜日）第2水曜日（5月,8月,10月,11月,1月は第3水曜日）13:30-16:00 4月1日,10日,15日,5月6日,15日,20日,6月3日,12日,17日,7月1日,10日,15日,8月5日,14日,19日,9月2日,11日,16日,10月7日,16日,21日,11月4日,13日,18日,12月2日,11日,16日,1月6日,15日,20日,2月3日,12日,17日,3月3日,12日,17日 オンライン当事者会(メタバース) 毎月第4水曜日（5月,8月,10月,1月は第5水曜日）15:00-17:00 4月24日,5月29日,6月26日,7月24日,8月28日,9月25日,10月30日,11月27日,12月25日,1月29日,2月26日,3月26日 2024年度家族会 毎月第2第4月曜日（5月,8月,10月,11月,1月は第3第5月曜日）第1水曜日（5月,12月は第3水曜日,8月,10月,11月1月は第2水曜日）13:30-16:00 4月3日,8日,22日5月8日,13日,27日,6月5日,10日,24日,7月3日,8日,22日,8月7日,12日,26日,9月4日,9日,23日,10月9日,14日,28日,11月6日,11日,25日,12月4日,9日,23日,1月8日,13日,27日,2月5日,10日,24日,3月5日,10日,24日 オンライン家族会 毎月第3水曜日（5月,8月,10月,11月,12月,1月は第4水曜日）13:30-16:00 4月17日,5月22日,6月19日,7月17日,8月21日,9月18日,10月23日,11月20日,12月18日,1月22日,2月19日,3月19日	北海道立道民活動センター「かでる2.7」会議室、事務局、	10人	北海道内に住むひきこもり当事者、家族、など述べ544人	3,873
自信回復を狙いとした一般就労と福祉就労との間に位置する中間的労働(在宅ワーク)を構築する事業	一般就労では不安感や負担が多く、福祉就労ではもの足りない制度の狭間に置かれたひきこもり当事者が、当事者会活動のつながりから社会参加できるような新しい働き方を模索検討していく。2024年度は前年度に引き続き、札幌市ボランティア活動センターが発送するDM便郵送物の袋詰め作業など軽作業を毎月2回実施した。なお、吉川理事が札幌市ボランティア活動センター運営委員会委員だったが任期満了で退任した。	印刷製本作業 センター通年・毎月2回	札幌市ボランティア活動センター研修室、社会福祉総合センター会議室	毎月3～4人	札幌圏の市民ボランティアなど870人	4

事業名	事業内容と報告	実施月日	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
広く一般市民にひきこもり等を理解してもらうための講演会・イベント開催事業	ひきこもりの理解啓発のための研修会などに理事者が出向き、講演研修会講師やパネラーなどを担った（当NP0のピアスタッフとして登壇したものも含む。※オンラインによるリモート出演） 8月15日、海外向けメディア動画チャンネルに登壇しYoutubeで配信された。8月24日北見市地域福祉活動合同推進本部主催『「ひきこもり」と“ひと・場所・地域づくり”を考える』で地域づくりフォーラムに当NP0のピアスタッフ3名（大橋伸和、尾澤基、吉田英司）とともに登壇。この模様は8月25日付北海道新聞オホーツク版に掲載。9月7日、十勝管内の音更町役場主催の「こもりびとしゃべり場」交流会に参加。9月8日、東京で開催された一般社団法人OSDよりそいネットワーク主催の講演会「元経験者が語る『親亡き後』」に登壇。11月21日、「令和6年度ケアラー支援推進シンポジウム」のシンポジストとして登壇。この模様は12月7日福祉新聞と12月16日付北海道新聞朝刊生活暮らし欄に発言内容が掲載。11月25日、ひきこもりに係る支援者等育成研修等事業 支援者向け研修「先進事例紹介」に登壇※。11月28日、北海道社会福祉協議会主催「令和6年度胆振地区地域支え合い活動推進セミナー」に登壇。同セミナーの内容は12月2日付室蘭民報に掲載。2月25日、一般社団法人北海道ピアサポート協会主催の「ピアスクール」で「現役ピアサポーターから学ぶ」を担当。江別市から受託された江別市社会福祉協議会主催居場所「シエスタ」に大橋・尾澤・吉田・とりがピアスタッフとして派遣協力し年度内6回（8/30・9/28・10/26・11/27・12/12・12/24）担当した。 12月19日付北海道新聞「ひきこもりの人の就労 在宅ワークに注目」にコメントが掲載。情報紙「北方ジャーナル」5月号ルポ「ひきこもり」104に「母と私の半世紀」と題した記事や、1月30日付北海道新聞朝刊生活暮らし欄、シリーズ介護保険25年「③8050問題ー親の支援 子にもつなぐ」において自身の介護体験が掲載。12月21、北海道新聞朝刊札幌圏版に「ひきこもりの人、在宅就労で自信」が報道されコメントが掲載。NHK札幌放送局「おはよう北海道」特集：おはようリポート（6月28日放送）をはじめ、HBC「今日ドキッ」（5月16日放送）、UHB「みんなでテレ」（5月29日放送）HTB「イチオシ」（5月22日放送）でメタバースを活用した当事者会が放送され、田中理事長のほかピアスタッフが出演した。 武田俊基理事／居場所「よりどころ」家族会（5月8日、9月9日、10月9日、11月6日、2月5日、3月5日開催）で話題提供し、当事者本人への対応などを家族へ向けて語った。 吉川修司理事／情報誌「北方ジャーナル」7月号に連載中のルポ「ひきこもり」106でインタビュー記事が掲載。 鈴木祐子監事／居場所「よりどころ」オンライン家族会で毎月1回司会進行を担当した。12月21日、NP0法人クロユリの会主催、龍雲寺寺子屋のつどい「絵手紙によるアウトリーチ」で講師を務めた。 情報誌「北方ジャーナル」12月、1月号のルポ「ひきこもり」111では吉川理事との対談が掲載。 当NP0のピアスタッフ／尾澤氏は7月24日、社会福祉法人塩谷福祉会主催の「ひきこもり相談会」で話題提供した。この模様は7月25日付北海道新聞小樽・後志版に報道された。とり氏は9月6日、紋別市社会福祉協議会主催「ひきこもりについて考える」講演会講師として登壇。武田理事、大橋氏、とり氏、尾澤氏、吉田氏は前掲の「広域な地域特性に対応したひきこもり多機能型支援拠点設置運営事業」にローテーションを組んで参加し、ファシリテーターならびに話題提供を行った。情報誌「北方ジャーナル」11月号、ルポ「ひきこもり」110で尾澤氏、大橋氏、吉田のインタビュー記事が掲載。	2024年度 5月8日 7月24日,25日 8月15日,24日,30日 9月6日,7日,8日,9日,28日 10月9日,26日 11月6日,21日,25日,27日,28日 12月12日,21日,24日 2月5日,25日 3月5日	札幌市内の公共施設のほか各会場、事務局	8人	北海道内外に住むひきこもり当事者と家族、支援者、一般市民 延べ500人	6

事業名	事業内容と報告	実施月日	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
他団体とのひきこもり支援ネットワークづくり事業	ひきこもりについての意見交換を積極的に行ない、他団体機関との交流を深め、ひきこもりの理解啓発、解決へ向けの方針策定をすすめた。 前年度に引き続き2016年度に発足した「北海道ひきこもり当事者連絡協議会」加盟した5つの当事者団体(旭川・NAGI、函館・樹陽のたより、帯広・リカバリースポット、札幌・すなはま、SANGOの会)との連携協力体制を維持した。旭川の当事者会NAGIについては隔月1回の定例会に武田俊基理事が司会進行役として現地に赴き支援協力した。 前掲の「広域な地域特性に対応したひきこもり多機能型支援拠点設置運営事業」では、旭川市、北見市、函館市でプラットフォーム構築のため市役所、保健所、社会福祉協議会、地域若者サポートステーションなど多くの支援団体機関との連携と協力を得て事業を展開した。2025年1月30日に開かれた「公開型ひきこもり支援拠点ワークショップ情報交換会」では今年度実施した4支援拠点で運営に協力した支援団体機関が集結し報告を行い有効な情報交換の場となった。 前掲の「ひきこもり当事者の老後を支え合う協同実践事業」において5回シリーズで開催した「道ひ老会」学習会では、親亡き後を生きる上で必要な情報について専門分野の知見を各講師の方々から教えてもらうことができ、課題解決に向けて事業の活動を盛り上げることができた。 前掲の「札幌市ひきこもりに関する集団型支援拠点設置運営業務」居場所「よりどころ」では札幌市ひきこもり地域支援センターをはじめ札幌市就労生活支援センター「ステップ」から相談担当者が派遣され、当NPOのピアスタッフとともに協働しながら参加者と交流を深めた。 4月から当NPOと札幌市・ソフトバンク㈱CSR本部・北海道大学院保健福祉学科研究院との産学官民による共同体制でメタバースによる居場所運用を開始した。反響も大きく、10月30日、長野県諏訪市議会議員で社会文教委員会8人による視察、1月29日、「若者の生きづらさを解消し高いウェルビーイングを実現するメタケアシティ共創拠点研究開発課題2」に取り組む精神科医の藤田純一氏ほか2名の視察があった。 ソフトバンク㈱と札幌市、当法人との協議ですすめてきた「ひきこもりショートタイムワーク」事業「体験会」は2回実施し、参加者の中から選出された当事者2名がソフトバンク社と雇用契約を結び、在宅でデータ管理を中心とした業務に就いた。ショートワーク事業については、11月21日付北海道新聞道央版、12月21日付北海道新聞札幌圏版で報道され広く告知された。「よりどころ」の周知に際しては札幌市のホームページ等で開催日程が掲載された。前年度から引き続き「ひきこもりサポーター養成協議会」では、KHJ北海道「はまなす」とともに連携関係を続けた。 9月16日開催の居場所「よりどころ」当事者会、12月1日、支援拠点設置運営事業において函館市で開催した学びと交流サロン「あさがお」(第3回)に、全国のひきこもり支援の動向を伝えてきたひきこもり外交官のさえきたいいち氏が参加し、当NPOの活動に理解を示しながら側面的に応援をしてもらった。 前年度に引き続き、9月24日、当NPOの活動に関心を寄せる檜垣尚子議員が北海道議会で代表質問に立ち、ひきこもり支援をさらに推進するための対応について質問した。また、10月11日には札幌市議会で前川隆史議員が居場所「よりどころ」におけるメタバースを活用した就労支援などの実施状況について質問した。 2023年4月からNPO法人KHJ全国ひきこもり家族会連合会の理事を務めてきた田中理事長は、2025年3月31日付で任期満了にて理事を退任した。	2024年4月～2025年3月	北海道立道民活動センター「かでる2.7」ほか各会場	5人	当事者、家族、実践者、学生、一般市民など延べ100人	10